



日本自転車振興会補助事業 平成18年度事業概要

(2) 超電導技術の普及啓発・情報提供活動

ア．超電導応用技術の普及啓発活動(国際超電導シンポジウム・超電導技術動向報告会)

「第19回国際超電導シンポジウム(ISS2006)」を平成18年10月30日から11月1日の3日間、名古屋国際会議場(名古屋市)で開催した。基礎から応用技術にわたる幅広い分野で、国内外の最先端の研究開発・技術開発成果が報告された。参加者は715人(国内557人、海外158人、参加国22ヶ国)、発表件数は口頭講演145件、ポスター講演390件の合計535件であり、ここ数年で最多となった。さらに、企業11社による超電導関連材料と製品、技術の展示会も行われ、多数の参加者に超電導製品の紹介がなされた。

また、「超電導技術動向報告会」を平成18年5月29日に都市センターホテル(東京都)で開催した。今回は「超電導応用技術の新展開：競走の時代 - 転機を迎えた超電導開発」と題し、超電導技術戦略マップ等の基調講演2件を含めて、Y系超電導線材開発、バルク超電導体プロセス、超電導バルクNMR、超電導SFQデバイス、走査レーザSQUID顕微鏡、変圧器・リニアモーターカー・SMES(超電導電力貯蔵装置)等の超電導応用機器実用化に向けた研究開発の着実な進捗状況について11件の発表がなされた。参加者は、国内企業、研究機関、大学、報道関係者及び一般参加者を含め、約250名であった。

これらの開催状況については、電子情報誌「超電導Web21」の特集号として掲載し、国際超電導シンポジウム・超電導技術動向報告会に参加できなかった方々にも情報提供を行った。



ISS2006 講演風景



技術動向報告会講演風景